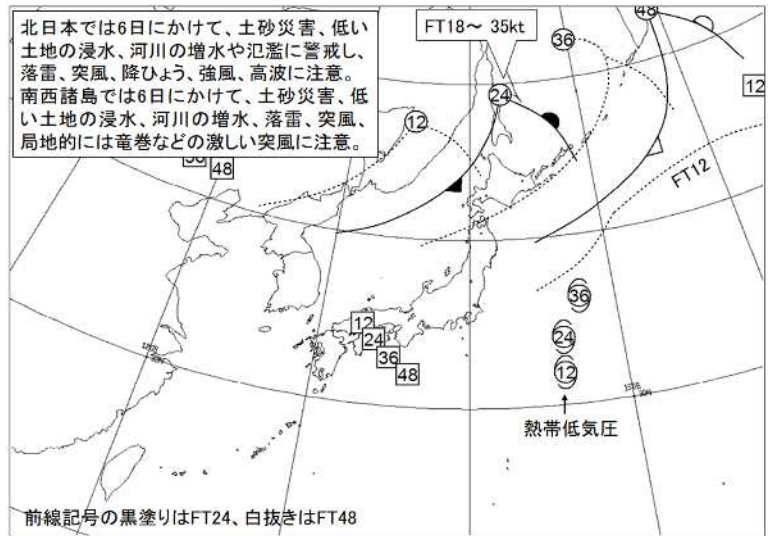


1. 実況上の着目点

- ① 前線がアリューシャン近海～日本の東～伊豆諸島付近にのびており、前線上の関東の東に低気圧が停滞。日本の東を東北東進する500hPa 5820m付近のトラフと、前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、前線近傍では激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5580～5640m 付近のトラフに対応する低気圧が、前線を伴って中国東北区を東北東進。
- ③ 沖ノ鳥島付近に熱帯低気圧が停滞。
- ④ 非常に強い台風第11号が南シナ海を西進。台風や③の熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、沖縄の南で発雷を検知、南西諸島では激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは5日夜にかけて千島の東へ進み、前線上の低気圧は5日朝までに、前線も5日夜までに日本の東へ進んで不明瞭になる。
- ② 1項②のトラフは5日はサハリン付近へ、6日はカムチャツカ半島へ進む。また、アムール川上流域の500hPa 5700m 付近のトラフが5日は沿海州付近へ、6日は北日本を通過して千島の東へ進む。1項②の低気圧は、5日夜にはサハリン付近へ進み、6日は閉塞しながらオホーツク海へ進む。また、6日夜までに閉塞点上に発生する低気圧がカムチャツカ半島へ進んで、寒冷前線が北日本を通過する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気に、上空寒気の影響も加わり、北日本では大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨になる所がある。前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では6日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や突風、降ひょう、強風や高波に注意。
- ③ 1項③の熱帯低気圧は、6日にかけて沖ノ鳥島付近にほとんど停滞する。
- ④ 1項④の台風は6日にかけて、発達しながら南シナ海を西北西進する。南西諸島では、引き続き台風や2項③の熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ⑤ 南西諸島と西～東日本では6日にかけて、高気圧に覆われて晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症に注意（熱中症警戒アラートを参照）。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(06時からの24時間)：北海道100mm。②波浪(明日まで)：北海道3m。③高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。